

監査・ガバナンス研究部会（第209回）議事録

日時：平成27年4月10日（金）15:00～17:00

場所：学士会館310号会議室

出席者：今井、上原、大関、岡本、勝田、嶋多、永井、中嶋、林、日向、山本、
山脇、井上（文責）

【報告事項】

今井部会長から、3月28日開催の第143回理事会について報告があった。

【定例研究発表】

「『金融庁』によるコーポレートガバナンス・コード最終案の問題点等」（今井祐部会長）
＜概要説明＞

- 今年3月5日に公表された「コーポレートガバナンス・コード原案」（以下「本コード」と略す）は「日本再興戦略 改訂2014」に基づき、我が国の成長戦略の一環として策定され、「攻めのガバナンス」の実現を目指すものである。
- 東証はパブ・コメを経て、本コードの内容を分割して上場規程等に落とし込み、最終案は5月上旬にまとめられる予定。
- 本コードには東証の「2004年版コーポレートガバナンス原則(2009年改訂)」にはなかった①ステークホルダー論に基づくコーポレートガバナンスの定義、②経営理念、③行動準則（倫理規範を含む）、④中期経営計画、⑤非財務情報（ESG等）、⑥ステークホルダーとの協働（以前の「尊重」から格上げ）、⑦CSR即ち、サステナビリティ（持続可能性）を巡る課題への適切な対応、⑧女性の活躍促進を含むダイバーシティ、⑨独立社外取締役の役割・責務の4番目に、初めて「ステークホルダーの意見の反映」が入る、⑩株式の持合い、などの項目が取り上げられていることは、日本経営倫理学会やBERC・ACBEEにとって、正に画期的なことである。
- 「本コード」はOECDのコーポレートガバナンス原則を色濃く取り入れ、「スチュワードシップ・コード」は英国のそれを参考に作成されている。従って、米国流のモニタリングモデルを前提とはしていないが、独立社外取締役による監督機能の強化等は取り入れている。
- 本コードによる企業側のガバナンス強化の取組みは、スチュワードシップ・コードに基づく株主（機関投資家）と会社との間の建設的な「目的を持った対話」によって、更なる充実を図ることが可能である。その意味において、本コードとスチュワードシップ・コードとは、いわば「車の両輪」であり、両者が適切に相まって実効的なコーポレートガバナンスが実現されることが期待される。
- また、両方コードとも、「コンプライ・オア・エクスプレイン」（原則を実施するか、実施しない場合には、その理由を説明するか）方式を採用している。従って、刑事罰はない。

<討議・意見>

- 本コードはプリンシプルベースだから、各企業での実施は強制ではないはずだが、本コードで説明しようとする、そこにだけ光が当たり、また、各社同じような表現になるのではないか。
- 株主の権利の平等性をうたうが、種類株式等平等に扱えないものもある。
- 株主との対話が重要になるが、例えばスチュワードシップ・コードを受け入れた184の機関投資家の中にも、質的なものに差があるのではないか。(→対話する株主を選ぶことが想定されている。)
- 株主との対話では、会社の経営戦略や中期計画が重要なテーマとなるが、それらをきちんと用意できる企業がそう沢山あるとは思われない。また、どこまで開示すればいいのかという問題もある。
- 例えば3年とか5年の中長期の戦略をテーマにすべきで、その年の配当とか利益といった短期的なものを話題にすべきではない。
- 株主との対話では、特定の株主に過剰な情報提供をすると、インサイダー取引の問題も惹起しかねないから注意が必要。
- 両コードが浸透すればするほど、企業の特徴が薄れて行くのではないか心配だ。日本の企業は横並び意識が強い。
- 英国では、企業が explain の代わりに comply し過ぎるという批判もある。ISS のように一律な議決権行使基準を設けるのは問題だ。
- 両コードが投げかける問題をよりポジティブにとらえ、日本の企業と社会の発展につながるようにしたい。

【討議】

監査・ガバナンス研究部会「平成27年度部会活動の在り方」

<部会名称変更の件>

- 前回に引き続き、部会名称の変更について、出席者部会員全員の意見を出し合ったところ、部会名称変更賛成のもの10名、反対の者3名であった。本日欠席や休会中の部会員の意見も徴した上で、部会名称変更を正式に決定することとなった。

<部会ミッション>

- 変更せず、そのままとした。

<部会の基本テーマ>

「健全な組織統治（「コーポレート・ガバナンス＝企業統治を含む」）を実現するための制度・運用と役員等の在り方」と文言修正した。

<個別テーマ>

- それぞれの部会員が提出したテーマで月別に割り振った部会長作成案（H27-4-10）を全員異議なく了承した。後日若干の修正がある見込み。

山本副幹事（会計担当）から、平成26年度会計報告があり、全員異議なく了承した。

【次回開催日】5月15日（金）午後3時 学士会館309号会議室